

アラン著、森有正訳「定義集」みすず書房 1988年5月16日刊を読む

## 1. 原書出版者の序

- (1) アランは定義することをきわめて高く評価していた。かれはアリストテレスの定義を引用しては、それがいかにも巨匠にふさわしいものと考えていた。かれはまた、デカルトやモンテスキューやカントなどからも、その場その場に適した定義を見つけ出すのであった。アランは、一つの共通観念の、その観念の本質にまで還元された、簡潔な提示が、その提示の単なる厳密さだけで、イデオロギーとは関係のない、また論争によっては接近することのできない、静かな力勁さを獲得してゆくのを讃嘆するのが常であった。それこそ、凡ての真正の反省の範型であり、源泉なのだ。
- (2) アランの学校教師としての最後の数年間(およそ 1930 - 1933 年)に、かれの教えを受けた者は、かれが教室でどういうふうに定義を即席に綴ることを生徒に課したかを語っている。綴られた定義はその場で読みあげられ、検討され、補足され、訂正されたのち、力強い句となって黑板の上で完成されることが多かった。それを記憶している者は多い。アランは書いている、「この練習は、私の創始したいちばんよい練習であった」と。
- (3) アランはある年代のはっきりしない時期に(おそらく 1929 年から 1934 年にかけて)一語について一枚ずつの約五百枚のカードを作製していた、もしくは作製させていた。偶然とその場その場の気まぐれも大いに手伝ったらしく、語の選択にはなんら一貫した方針はみられない。ときおり、アランは一枚のカードを手にとって、あの力づよい書体で、書き損じもなく、一つの定義をつくったのである。残念なことには、空白のままのカードも残っている。
- (4) これらの定義の一部は、『メルキュール・ド・フランス』(1951年12月1日付)に発表された。その全体は、いま、ここに、初めて公けにされるのである。

## 2. 訳者のことば

- (1) 本書は、その慎ましい外観にもかかわらず非常に重要な作品である。ここに提示されているのは、フランス中等教育の精髓である作文の典型であり、中学の教師として一生を終えたアランの本領を示すものである。ものとことばと思想との関連を実によく示しているものとして、千百のフランス思想の解説書よりも価値の高いものである。
- (2) 原著は、パリのガリマール書店から 1953 年に刊行された。語と文とがものそのものと同じ重みをもつことを、われわれは本書によって学ぶのである。

森 有 正

## 3. 練習 | EXERCICE |

- (1) ①何か本当の行動に向って自分を準備することを目的とする行動。
  - ②わたくしはソナタを弾くことができるように音階を練習する。
  - ③わたくしは戦うことができるように剣術を学ぶ。
  - ④わたくしは英語の先生以外の人とも話せるように英語を学ぶ。
  - ⑤練習においては、人は困難な点を分割し、一つの運動を他の凡ての運動から引き離すということが含意されている。

- (2)①人は、自分が欲することを行うためにしか練習しない。
- ②腕を伸ばすとか、拳を突き出すとか、走るとかなどである。
- ③経験の示すところによると、人は一遍でやろうと思うことができるようになるものではない。
- ④デッサンはその驚くべき一例である。
- ⑤何となれば、デッサンをまずくやっている間、人は自分の欲することをしていないと判断せざるをえないからである。
- ⑥一箇の円を現実に描くためには、それを描こうと欲することでは足りない。
- ⑦練習は、それ故、欲する術の大部分である。
- ⑧練習に対立するものは想像上の〔: IMAGINATION〕実行であって、世の中でもっとも滑稽なものである。
- ⑨わたくしは自分が走ったり、賞を得たり、敵を打ち倒したり、その他のことを想像する。
- ⑩それらは、実行することだけが難しいのである。
- ⑪それ故に、あの[スペインのモール人に対して武勇を自慢した]法螺吹き[のマタモロス]に向って、人は剣を抜く。
- ⑫それは《お前のお手並を実際に拝見しよう》という意味である。

P82 ~ 83

#### 4. 進歩 | PROGRES |

- (1)①緩慢で永い間気づかれず、それでいて外部の力に対する意志の勝利を確立する変化。
- ②あらゆる進歩は自由に発するものである。
- ③私は自分が〔自由に〕意志すること、例えば早起きをしたり、楽譜をよんだり、礼儀正しく〔poli : POLITESSE〕したり、怒り〔COLERE〕を抑えたり、人を羨ましがらなくなったり、はっきりと話をしたり、読みやすいように書いたりすることなどを、するようになる。
- ④人々は合意して、平和〔PAIX〕を実現し、不正義〔: JUSTICE〕や貧困を減少させ、全ての子供達を教育し、病人を看護するようになる。
- (2)①反対に、われわれを多少とも非人間的な力に屈従させることによって、知らず知らずのうちにわれわれをわれわれの立派な計画から遠ざけるような変化を、人は進化〔evolution〕と呼ぶ。
- ②《私は進化した》と言う人は、時とすると、知恵〔SAGESSE〕において自分が前進したことを了解させようと欲していることがある。しかしそれは出来ない。
- ③言葉がそのことを許さないのである。

P152 ~ 153

#### 5. 友情 | AMITIE |

- ①これは自己に対する自由で幸福な約束であって、自然の共感を、予め、年齢や情念〔PASSION〕や相剋や利害や偶然を越えて、変ることのない一致〔ACCORD〕にまで、変えることである。
- ②普通それは言葉には出されないが、人は友情の結果を見、友情に絶対的に〔: ABSOLU〕信頼を置く。〔se fer〕
- ③そこからいかなる駆引もない会話や判断の自由が可能になる。逆に、条件付の友情というものは人を喜ばせることができない。

P13

[コメント]

森有正先生が日本の国民に最も紹介したかったのが本書、アランの「定義集」だったように思えてならない。「体験」、「内的促し」、「経験」、「定義」へと自らの思想を深化させ、自らを振り返るきっかけをつくってくれる名著。森先生の翻訳も丁寧この上ない。

— 2012年9月22日 林 明夫記 —